

人のうごき

令和6年5月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

齊藤 一護^{いちご}くん (祐真・詩音) 南町
野宮 碧和^{あおと}くん (和広・望優) 栄町

ごけっこん

榊原 駿介^{しんすけ}さん 逢坂 夏帆^{なつほ}さん 北5の1
川島 凌希^{りょうき}さん 佐藤 緋奈乃^{ひなの}さん 南4の1

おくやみ

熊谷 小敏^{こみん}さん 79歳 栄町
熊谷 俊弥^{しゅんや}さん 82歳 南町
廣瀬 泰藏^{たいざう}さん 98歳 南町
畠田 トシ^{とし}さん 94歳 南2の4
佐藤 美千子^{みちこ}さん 87歳 北4の2
安井 妙子^{たけこ}さん 85歳 高台
野宮 國藏^{くにざう}さん 72歳 栄町
佐藤 利昭^{りしやう}さん 80歳 幸町
室谷 美子^{みこ}さん 84歳 南6の4
水元 信夫^{のぶ}さん 71歳 焼尻
松田 ミツ子^{みつこ}さん 94歳 栄町

人口と世帯数(5月末)

人口	6,026人	(- 9)
男	2,928人	(- 1)
女	3,098人	(- 8)
世帯数	3,347世帯	(+ 9)

()は前月比

戸籍の届出について

戸籍の届出は休日に対応しています。休日にお越しの際には連絡事項等がございますので、事前に町民課総合受付係までお電話ください。(☎ 68-7003 ※休日可)



Dr. 佐々尾の健康カルテ

「認知症」には様々な種類があり、どのタイプか?と断定することは難しいこと、正確な診断よりも支障をきたしている社会生活の改善が重要であると先月号でお伝えしました。「病氣」として捉えるのではなく、そのような「特性」をもった個人をどのように支えていけるかが大事であるという意味です。ただ、「病氣」として扱ってほしいという思いを、本人よりは家族から聞くことが多くあります。大きな点としては、「病氣」として「治療」してほしいという意味合いがあると思われます。

「認知症」に対する薬として従来使用されてきたのが、「ドネペジル(商品名はアリセプト)」で、その後、同じ類の薬として、「ガランタミン(同レミニール)」「リバスチグミン(同イクセロン/リバスタッチ)」が出てきました。日本のある報告では85歳以上の17%でこれらの薬を服用しているという報告があります。アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症では、神経伝達物質の1つであるアセチルコリンが脳内において減少していることが知られており、脳内にあるアセチルコリンエステラーゼというアセチルコリンを分解する役割を持つ酵素を抑えることで、脳内でのアセチルコリンの濃度を高め神経伝達を助ける作用があります。治療というと「治る」ことをイメージすることがありますが、認知症の治療の意義は「治る」ことではなく、「進行を抑える」ことになります。製薬会社による宣伝資料を読むと、「12週間後に認知機能が改善する」「1年程度進行を遅らせる」という結果を示すグラフが出てきます。やはり効果があると感じさせるのですが、ではどの程度改善させたかを詳しくみると、70点満点の試験で「3点」の差でありわずかに過ぎません。そして「進行を遅らせる」と薬の説明文には効果に関する記載はありますが、「認知症の病態そのものの進行を抑制するという成績は得られていない」とも記載されています。薬の有効性を示す指標として、「1人に効果を示すために何人に投与する必要があるか(治療必要数)」というのがあり、「10人」とする報告があります。実はこの数字自体は優秀な成績になるのですが、反対に「1人に副作用を示すために何人に投与する必要があるか(害必要数)」は「12人」とされ、ほぼ同じと言えます。つまり、1人薬が有効な人を出すときに同時に副作用も1人出すということになるわけです。

この点をぜひ理解しながら、治療を受けるかどうかを検討いただくと良いと思います。

(北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師)

宝くじ 公式サイト すぐ買える 当たりがわかる クイックワン

宝くじ 公式サイトで発売中!

宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業等に役立てられています。
公益財団法人北海道市町村振興協会



広報はぼろ 令和6年6月号 No.732 発行 羽幌町 078-4198 北海道苫前郡羽幌町南町1番地1 編集 地域振興課
電話 0164(68)7013 FAX 0164(62)1219 メール c-kouhou@town.haboro.lg.jp ホームページ www.town.haboro.lg.jp